

平成 29 年度第 2 回加古川市子ども・子育て会議 議事要旨

日時	平成 29 年 10 月 20 日（金） 15 時 30 分から 17 時 15 分
場所	加古川市民会館 多目的室
出席委員	杉山会長、下村副会長、木村委員、小泉委員、田口委員、仲田委員、藤井委員 藤池委員、藤木委員、三柴委員、吉田委員、譯樋委員
会議次第	1. 開会 2. 議事 (1) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて ①教育・保育の見直しについて ②地域子ども・子育て支援事業の見直しについて (2) 特定教育・保育施設の利用定員の設定について 3. その他 4. 閉会
配付資料	資料 1：平成 29 年度第 2 回加古川市子ども・子育て会議 座席図 資料 2：教育・保育における見直しの概要 資料 3：就学前児童数の補正について 資料 4：教育（1号認定）に関する見直し後の量の見込み（案）の算出について 資料 5：保育（3号認定）に関する見直し後の量の見込み（案）の算出について 資料 6：見直し前後における量の見込みと確保方策の比較（教育） 資料 7：保育における量の見込み及び提供体制 資料 8：見直し前後における量の見込みと確保方策の比較（保育） 資料 9：地域子ども・子育て支援事業 中間年の見直し（案） 資料 10：《参考》加古川市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し（素案） 資料 11：パブリックコメントの概要 資料 12：利用定員の設定について 資料 13：《参考》利用定員の変更について 資料 14：加古川市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業 利用定員一覧表 （平成 30 年 4 月 1 日予定）

議事要旨

1. 開会	
<p>2. 議事（1）</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>（1）①子ども・子育て支援事業計画（教育・保育）の中間年の見直しについて</p> <p>子ども・子育て支援事業計画（教育・保育）の中間年の見直しについて資料2から資料8により説明</p> <p>現時点では、区域Aにおいて、0から2歳児の受入れ枠が不足しており、区域Bや区域Cの園が受け皿となっている状況である。平成30年度当初は、定員が大幅に増加する予定となっており、待機児童がどうなるのか、区域ごとの受入れ状況はどのようになるのか、見守っていききたい。</p> <p>なお、各認定こども園において、1号認定児のうち3歳児の入園希望者が多く、入園にあたっては抽選となることが多い。利用者のニーズに応えられていないことが、現時点での課題であると考えている。</p> <p>事務局の説明では、待機児童が解消される見込みであるということであるが、一方で、先程、委員の発言のなかで、待機児童が発生しているとのことである。結局、待機児童が解消されるのか、されないのかどちらか。</p> <p>現時点では、どの区域においても定員を超えて受け入れをしている状況である。今年度の各法人における、施設整備や定員を増やす取組により、平成30年度には、大幅に定員が増加する見込みとなっており、待機児童の状況がどうなるのか、見守っていききたい。</p> <p>補足説明をしますと、この度の中間年の見直しにおいては、計画策定当初と比較すると、就学前児童数が減少したことに伴い、量の見込みを下方修正している。今年度、施設整備等の取組により、定員数を大幅に拡大しており、3号認定を除く提供体制については、平成30年度当初には、量の見込みに対する提供体制が確保できる見込みとなっている。3号認定については、下方修正した量の見込みと提供体制を比較すると、提供体制が不足する見込みであるため、定員増加に向けた取組を進めていく予定である。</p> <p>しかしながら、平成30年になって初めて待機児童の状況が判明するため、待機児童の発生状況に応じ、今後の取組を検討していききたい。</p>

	<p>(1) ②子ども・子育て支援事業計画（地域子ども・子育て支援事業計画）の中間年の見直しについて</p>
事務局	<p>子ども・子育て支援事業計画（地域子ども・子育て支援事業計画）の中間年の見直しについて資料9から資料11により説明</p>
委員	<p>児童クラブについて、量の見込み（計画値）と申込者数とのかい離が特に大きい氷丘南、志方、志方西小学校区において、事業計画よりも前倒しで定員数を増やすことはないのか。</p>
事務局	<p>氷丘南小学校区については、平成28年度から民間事業者が実施しているクラブがあり、その部分については計画よりも前倒しとなっている。しかし、待機児童が発生しており、今後、整備を進める予定としている。</p> <p>志方、志方西小学校区については、量の見込みと申込者数とのかい離が大きいものの、それぞれのクラブの受入可能人数が申込者数を上回っており、提供体制は確保できている状況である。</p>
委員	<p>つまり、計画している年度よりも前倒しで定員数を増やすのか。</p>
事務局	<p>当初の計画では、氷丘南小学校区を平成31年度に整備する予定であったが、平成28年度に一部、前倒しをしている。整備の完了については、計画どおり平成31年度となる予定である。</p>
委員	<p>さらに前倒しすることはできないのか。</p>
事務局	<p>氷丘南小学校区以外にも加古川小学校区をはじめとして、前倒しで整備を進めている小学校区があるものの、現時点において、全ての校区で高学年の受入体制が整備できているわけではない。</p> <p>保護者の皆様から様々な意見を頂いている中で、可能な限り前倒しで整備を進めていきたいと考えている。しかしながら、小学校の空き教室の有無や、小学校内の敷地の活用についても制限がある場合もある。これらの制限がある中で、関係部署と協議をしながら着実に整備を進めていることにご理解をいただきたい。</p>
委員	<p>量の見込みと申込者数とのかい離率を見ると、低学年の受入体制も整っていないのでは。高学年ではなく、まずは低学年の受入体制を整える必要があるのでは。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりである。低学年の受入体制については、間もなく来年度</p>

委員	<p>の申込時期となるが、定員以上の申込みがあった場合には、一定の基準により審査することとなる。一定の基準とは、保護者の勤務時間や勤務日数、利用する児童の学年のことである。できる限り、児童クラブの利用希望者が利用できるよう、前倒しで整備していきたいと考えているが、定員を超えて申込みがあった場合には、低学年を優先して受入れをしている状況である。</p> <p>計画策定時の量の見込み（計画値）と申込者数とのかい離についての議論となっているが、実際の利用状況から判断すると、数字として表れない利用ニーズがあるように感じる。</p> <p>計画を策定するにあたり、市内の子育て世代を対象としたアンケートを実施した際には、子育て世代の生の声が返ってきた記憶がある。パブリックコメントを実施することを知らない人もいると思う。このような生の声を聴くためのアンケートを実施する等、何らかの形で収集する予定はないのか。また、当時実施したアンケートは、就学前児童のいる保護者が対象であったと記憶しているが、小学生の保護者を対象としたアンケート等は実施しないのか。</p>
事務局	<p>今回の中間年の見直しについては、国が示している見直しの手引きに沿って見直し作業を進めており、当初の計画で定めた量の見込み（計画値）と実績値とを比較してかい離がある場合に見直しをすることとされている。</p> <p>当初、計画策定にあたっては、市内の子育て世代を対象としたアンケートを実施し、保育所や幼稚園、児童クラブ等の利用希望を把握することで量の見込みを算出した。今回の見直しについては、これまでの実績を踏まえて計画を見直すよう示されており、中間年の見直しに限定すると、アンケートは実施する予定はなく、その代わりとして、パブリックコメントという意見を公募する形で見直しの内容について、ご意見をいただきたいと考えている。</p> <p>しかし、委員さんがおっしゃるように、市民の方の生の声を拾うことは、非常に重要な取組であると考えているため、平成 32 年度以降の次期計画を策定する際には、何らかの取組ができないか検討していきたい。</p> <p>また、アンケートについては、無作為抽出で就学前児童を持つ保護者を対象として実施しましたが、児童クラブについては、実態を把握するため、小学校に在学する児童の保護者を対象としたアンケートも別途、実施したところである。その点からも、児童クラブの利用ニーズは、きちんと見込めているものと考えている。</p> <p>(2) 特定教育・保育施設の利用定員の設定について</p>
事務局	<p>特定教育・保育施設の利用定員の設定について資料 12 から資料 14 により説明</p>

<p>委員</p>	<p>保育の現場では、前回の会議でも申し上げたが、保育士の確保が大きな課題となっている。保育士が働きやすい環境づくりや、給与面に関して、行政にも相談をし、保育所の処遇改善について提案をいただいているところであり、今後も、協力をいただきながら、取組を検討していきたいと考えている。</p> <p>また、加古川で生まれ育った学生の多くが、加古川市内の園に就職してもらえるような仕組みができれば、と考えている。</p> <p>近隣市の話になるが、明石市は第2子の保育料を無料とする取組をしており、入所申込数が増え、その結果、多くの待機児童が発生している。第2子が無料となることで、特に、0から2歳児の入所者が増え、親と子が接する時間が少なくなったこともあり、情緒不安定な子どもが多くなったように感じる。また、障害児に関する研修においても、児童虐待や子どもの命をどのように守るのか、といったテーマが多く、親と子がうまく向き合えていない家庭が増えていると実感したところである。保育の定員数が拡大すると、このような課題も増えるのでは、と危惧をしている。質の高い教育・保育を提供するためには、園だけではなく、家庭環境の改善も必要ではないか、と感じている。</p> <p>また、働く親への支援は徐々に拡大してきているが、在宅で子育てをする親への支援は、あまり充実していないのでは、と感じる。</p>
<p>3. その他 委員</p> <p>事務局</p>	<p>平成31年度には、保育定員が確保できる見込みとなっており、働く親への支援が充実してきていると感じる一方、在宅で子育てをする親への支援も充実させてほしいと感じる。公園で子どもを遊ばせる際に、幅広い年齢の子どもが一緒にいるときに、親としてどのように関与すればいいのか悩むことがある。生活の中での悩みについても、市が積極的に関わってほしいと感じている。</p> <p>子ども・子育て会議は、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業について、法律で定められた内容を事務局が説明し、各委員に議論をいただいている。また、事務局だけではなく、委員同士で議論いただく場として、「その他」を毎回設けているところである。「その他」においては、様々な議論を交わしていただいております、事務局としても有意義な場であると考えている。</p> <p>先程、意見がありました公園の件については、具体的な内容を事務局が議題として取り上げるのは難しいが、「その他」で議論していくことはできるのでは、と考えている。</p> <p>なお、地域子ども・子育て支援事業の中の1つである、利用者支援事業については、子育て世代包括支援センターを設置し、母子保健や育児に関する悩みや相談に対する積極的な支援をしている。また、地域子育て支援</p>

委員	<p>拠点事業として、市内2か所で運営している子育てプラザにおいては、スタッフが積極的に施設利用者に声かけをし、子育てに関する不安や悩みについて、助言をしているところである。また、子育てプラザでは、地域力を高めるため、シニア世代の育成も行っており、シニア世代の皆様には、各地域において活躍いただいているところである。</p> <p>今後も、充実した子育て支援ができるよう、取組を検討していきたいと考えている。</p> <p>保育や児童クラブの定員数の増加により、量の確保はできているように感じる一方、保育士や児童クラブの支援員が不足している状況である。特に保育士に関しては、給与面に関して、国や市の支援があるにも関わらず、仕事がハードであるため続けられない、と耳にしたことがある。保育園同士で、園児を呼び込むために競争をするのではなく、行事を減らしたり、園同士で交流をする等、園同士で共生をすることで、保育士の仕事を軽減したり、また、保育の質の向上につなげることができるのではないか。</p>
委員	<p>今回の会議では、量の見込みに対する実績値が示されているが、量が不足しているのであれば増やしていただき、予算の確保が難しいのであれば、予算の範囲内で整備等を進めていきたいと考える。それだけである。</p> <p>国の方針により、このような議題について、協議する必要があることは理解できるが、この会議は保育園、幼稚園、小学校の代表者であったり、子どもの保護者等、様々な立場の方が一同に会しており、生の意見こそが大事だと思う。「その他」の意見が、井戸端会議のように終わってしまうのではなく、実際の教育・保育や在宅で子育てをする親に還元されれば、と考えている。</p>
委員	<p>児童クラブの高学年の受入体制が整いつつあり、働く親にとっては良い環境になってきたように感じる。一方、児童クラブを利用するために、働く時間を延長したり、子どもの宿題を見てもらうために児童クラブを利用したりと、児童クラブの本来の目的とは違った利用者が多くなってきているように感じる。</p> <p>また、保育の定員数が増えたことに伴い、以前より、保育園を利用しやすくなっている。保育園に預ける方が楽である、といった理由により、保育園を利用する保護者が増えていることについて、残念に思う。</p>
委員	<p>子育ての社会化が進む中、特に乳幼児期の子どもと親とのスキンシップが大事であると感じている。保育の専門用語であるアタッチメント（愛着）の形成が不十分である子どもは、情緒不安定であり、急に泣き出したり、保育士から離れられない傾向がある。最近、子育てに関して、園任せの保護者が増えてきており、保護者への支援が求められているのでは、と感じ</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>ている。</p> <p>また、保育の必要量を定める「保育標準時間」と「保育短時間」では、保育料の差が1,000円と小さい。長時間預かってもらう方が楽であるために、働く時間を延長する親が増えている。保育の必要量について見直していただきたいと考えている。</p> <p>なお、加古川市においては、第2子が全て無料というわけではなく、保育料も比較的高額であるため、在宅で保育している家庭も多いと思う。今後の取組において、第2子を全て無料とする場合は、家庭内での愛着形成の重要性を伝えていきたいと考えている。</p> <p>私立幼稚園においては、子育て親育てを目的とした両親学級において、子育てに関する講演会を開催したり、親同士が意見交換をする場を設けている。保育所では、両親学級のような場を設けることは難しいところであるが、子育てについて共有し、話ができる場を提供できれば、と考えている。</p> <p>子育てプラザは、在宅で子育てをしている親を対象に支援をしており、子育てをしてよかったな、と思ってもらえるよう日々、努めている。個人を取り巻く状況は様々であり、子育て支援の難しさを感じ、地域や幼稚園、保育園、行政等の協力を得ながら事業を進めているところである。これからも、地域全体で子育てする親を支援していけたらと考えている。</p> <p>海外においては、年間525時間のみ保育料が無料と定めている国がある。年間525時間以外の時間については、無料ではなく、育休により子育てをしている。長期間で考えると、やはり、育休を進める結果となっている。</p> <p>保育料の無償化は、市民にとって受け入れられやすいシステムのように感じるが、在宅で子育てをする親がいることを踏まえ、全ての人が公平なサービスを受けられるようなシステムを考えていくことが重要であると感じる。</p>
<p>4. 閉会</p>	